

日本レコード協会規格

RIS 203-1999

コンパクトディスク用附属品

1988年	11	月25日	制定
1992年	6	月4日	改正
1998年	7	月28日	改正
1999年	2	月16日	改正

一般社団法人 日本レコード協会

日本レコード協会規格
RIS 203-1999
コンパクトディスク用附属品

1. **適用範囲** この規格は、**JIS S 8605** に準拠して製造するオーディオ CD (CD-DA) 並びに CD グラフィックス、CD テキスト、CD エクストラ、ビデオ CD、CD-ROM (以下、CD と略称する) などに使用する標準タイプの附属品 (レーベル印刷範囲を含む) について規定する。
2. **引用規格** この規格の引用規格を次に示す。引用規格はその最新版を適用する。
JIS S 8605 コンパクトディスク デジタル オーディオ システム
3. **用語の定義** この規格で用いる主な用語の定義は、次のとおりとする。
 - 1) **P ケース** 12 センチ CD を収納するプラスチックケースの総称。単にケースともいう。
 - 2) **ジュエルケース** 12 センチ CD 1 枚を収納する P ケース。リッド (フタ部)、トレイ (ディスク固定部) 及びボトム (サラ部) で構成する (通称 3 ピースタイプ)。
 - 3) **マルチケース** 12 センチ CD を 2~4 枚収納する P ケース。二つのボトムとトレイ及びミドルで組立てる。ディスク 2 枚を収納する 2D タイプ、3 枚収納の 3D タイプ及び 4 枚収納の 4D タイプとがある。
 - 4) **マキシケース** 12 センチのマキシシングル CD などを 1 枚収納する薄手の P ケース。リッドとボトムで構成する (通称 2 ピースタイプ)。
 - 5) **表カード** ジュエルケース及びマキシケースでは、リッド側に挿入する 1 枚 (2 頁) もの又は折り込みタイプのカード。マルチケースでは、表面側のボトムに装着されるフラップ付きのカード。フロントカバーともいう。
 - 6) **裏カード** ジュエルケース及びマルチケースのボトムに装着するフラップ付きのカード。バックカバーともいう。
 - 7) **ブックレット** ジュエルケース及びマキシケースのリッド又はマルチケースのミドルに挿入する本状の印刷物。
 - 8) **折り込みカード** 表カード、ブックレット又は 8 センチ CD のトレイジャケット内に、折り畳んだ状態で挟み込む歌詞・解説などを印刷したカード。
 - 9) **キャップ** P ケースの背の部分に三面に折り曲げて装着するタイトル等を印刷したカード状の印刷物。帯ともいう。
 - 10) **トレイジャケット** ジャケットカードと 8 センチトレイとで構成する 8 センチ CD 用のパッケージ。
 - 11) **ジャケットカード** 表面に写真、タイトルなどを印刷したもので、8 センチトレイを貼付する厚手のカード。
 - 12) **8 センチトレイ** 8 センチ CD を収納するため、ジャケットカードの内側に貼付するプラスチックの容器。なお、折り込みカードの収納に対応するトレイは、ミニトレイという。

4. 表カード

4.1 形状寸法

4.1.1 ジュエルケース用 ジュエルケース用表カードの仕上り形状は、図1のとおりとし、その寸法は、表1のとおりとする。

なお、Ⅱ型及びⅢ型の展開図面を図2、図3に示す。

図1 ジュエルケース用表カードの形状（Ⅰ型、Ⅱ型、Ⅲ型共通）

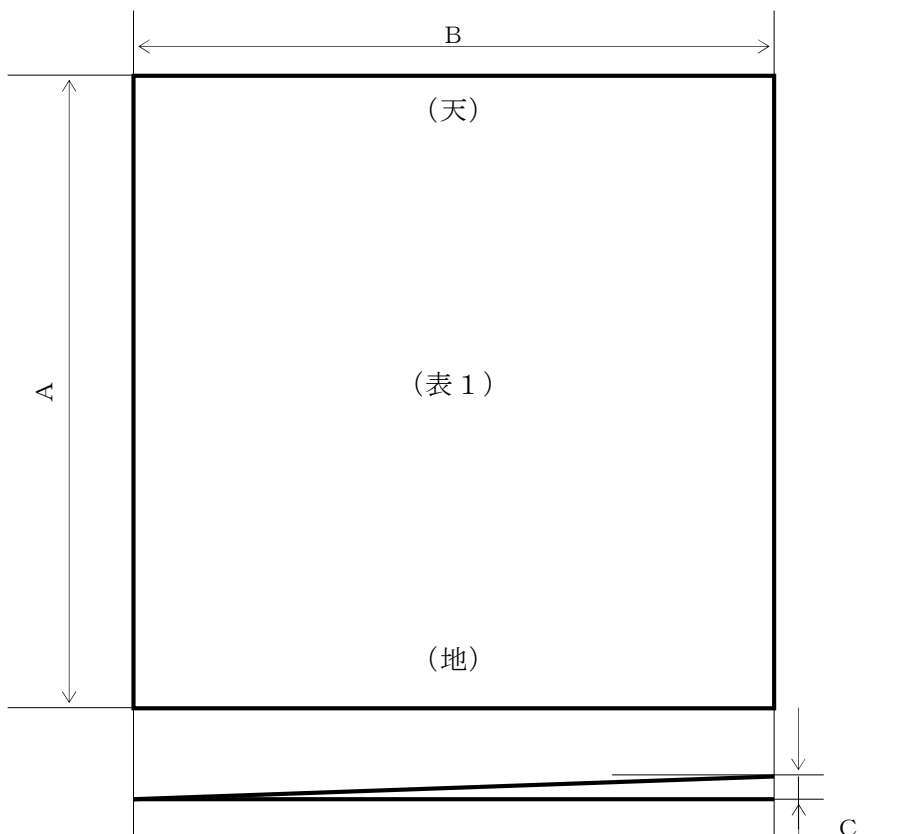


表1 ジュエルケース用表カードの寸法

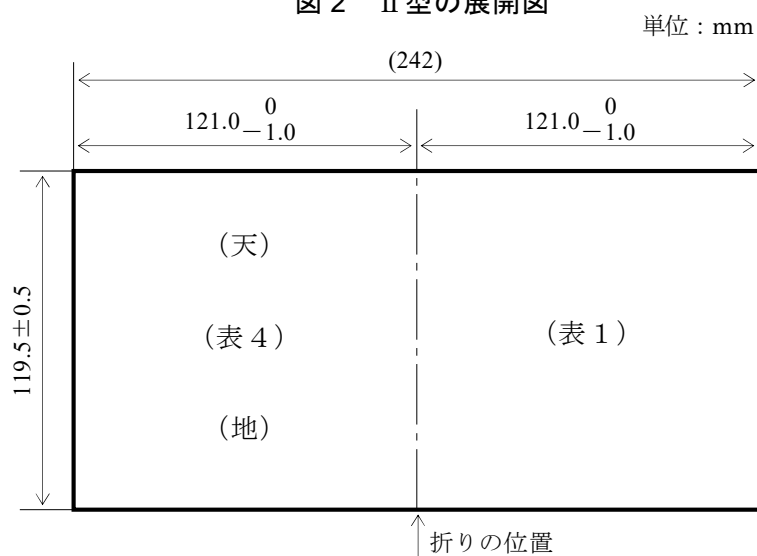
単位：mm

記号	Ⅰ型	Ⅱ型	Ⅲ型
A	119.5±0.5	119.5±0.5	119.5±0.5
B	121.0 ⁰ _{-1.0}	121.0 ⁰ _{-1.0}	121.0 ⁰ _{-1.0}
C	—	1.8以下	1.8以下

- 備考 1. Ⅰ型は、1枚ものの表カード。
 2. Ⅱ型は、二つ折（4頁）の表カード。
 3. Ⅲ型は、三つ折以上の表カード。

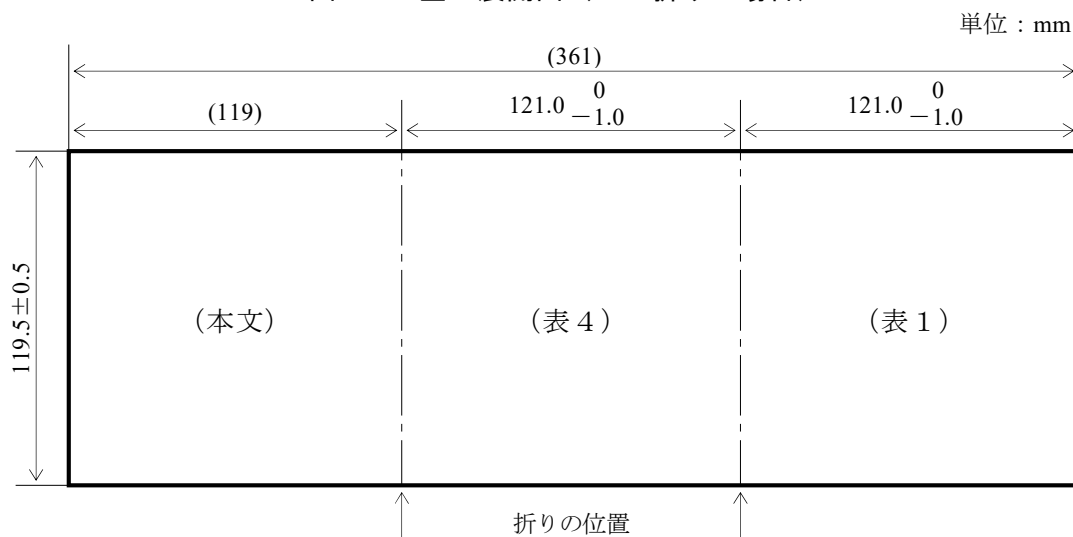
4. 寸法A及びBは、折りずれを含め規定の許容範囲内にあること。
5. 寸法Cは、折込みカード、添付物などを含めた総厚（最厚部）とする。
6. (表 1) は、最初の頁を意味し、(表 4) は最終の頁を意味する。

図2 II型の展開図



備考 () 内の寸法は、参考寸法とする。

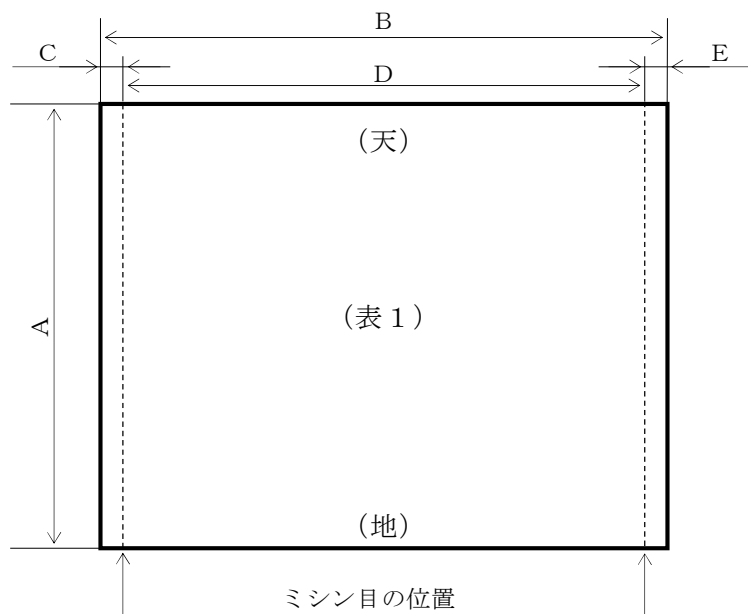
図3 III型の展開図（三つ折りの場合）



備考 () 内の寸法は、参考寸法とする。

4.1.2 マルチケース用 マルチケース用表カードの形状は、図4のとおりとし、その寸法は、表2のとおりとする。

図4 マルチケース用表カードの形状



備考 ミシン目は、原則として切刃 3mm，残 1mm とし，その方向は印刷面側（表 1）からとする。なお，断裁面から最初の切刃までの残は，1～1.5mm とする。

表2 マルチケース用表カードの寸法

単位：mm

記号	寸法
A	$117.5 \begin{smallmatrix} 0 \\ -0.5 \end{smallmatrix}$
B	150.0 ± 0.5
C	$6.0 \begin{smallmatrix} +0.5 \\ 0 \end{smallmatrix}$
D	138.0 ± 0.25
E	(6.0)

備考 () 内の寸法は，参考寸法とする。

4.1.3 マキシケース用 マキシケース用表カードの仕上がり形状は、図5のとおりとし、フラップ部分については図6のとおりとする。また、その寸法は、表3のとおりとする。

なお、Ⅱ型及びⅢ型の展開図を図7、図8に示す。

図5 マキシケース用表カードの形状（Ⅰ型，Ⅱ型，Ⅲ型共通）

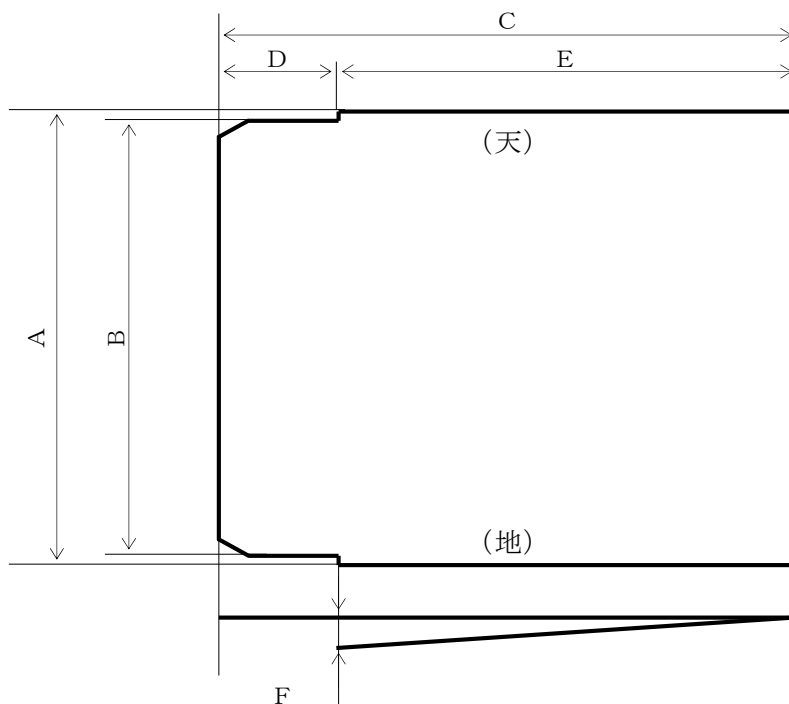
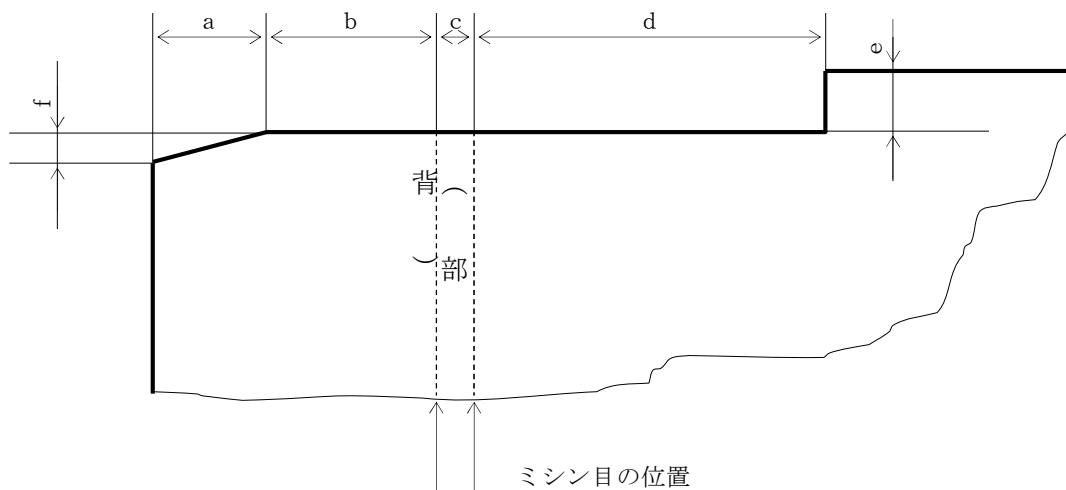


図6 フラップの形状



備考 ミシン目は、原則として切刃3mm，残1mmとし、その方向は印刷面側（表1）からとする。なお、断裁面から最初の切刃までの残は、1～1.5mmとする。

表3 マキシケース用表カードの寸法（I型，II型，III型共通）

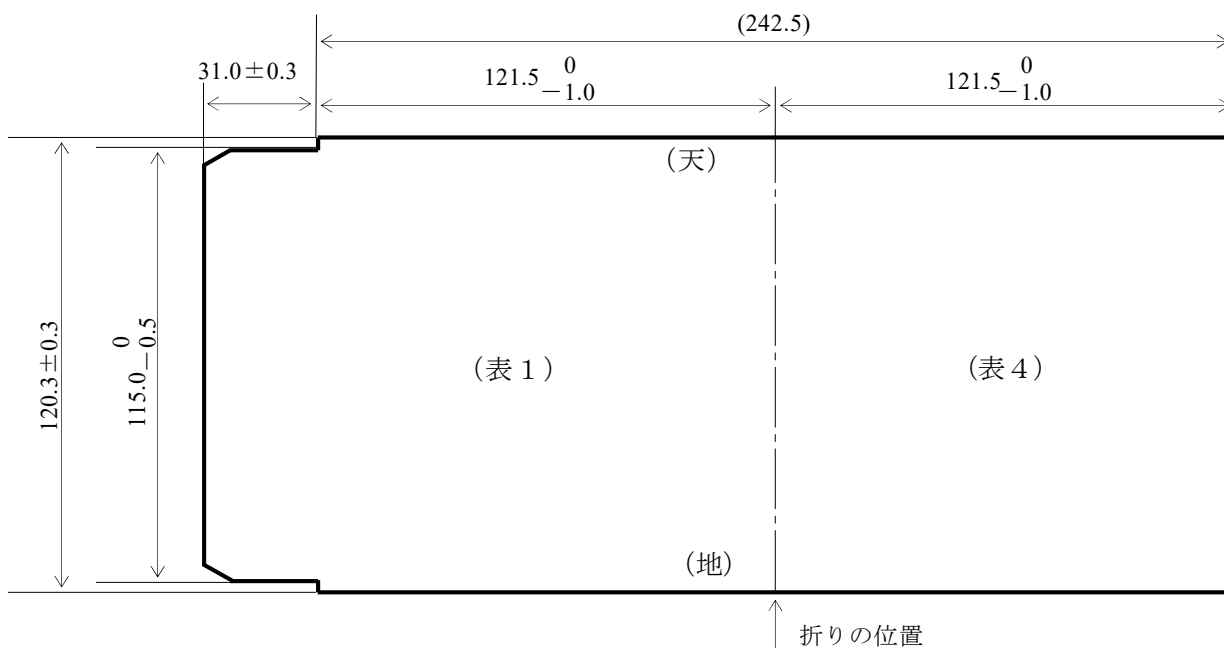
単位：mm

記号	寸法	記号	寸法
A	120.3 ± 0.3	a	(5)
B	$115.0 \begin{smallmatrix} 0 \\ -0.5 \end{smallmatrix}$	b	7.5
C	(152.8)	c	$3.0 \begin{smallmatrix} +0.2 \\ -0.3 \end{smallmatrix}$
D	31.0 ± 0.3	d	15.5 ± 0.3
E	$121.5 \begin{smallmatrix} 0 \\ -0.5 \end{smallmatrix}$	e	2.7
F	0.7以下	f	1.3以下

- 備考 1. I型は，1枚ものの表カード。
 2. II型は，二つ折（4頁）の表カード。
 3. III型は，三つ折（6頁）の表カード。
 4. 寸法A及びCは，折りずれを含め規定の許容範囲内にあること。
 5. 寸法Fは，折込みカード，添付物などを含めた総厚（最厚部）とする。
 6. ()内の寸法は，参考寸法とする。
 7. 寸法b，eの公差は，寸法A，B，C，Dにておさえられているので表記していない。

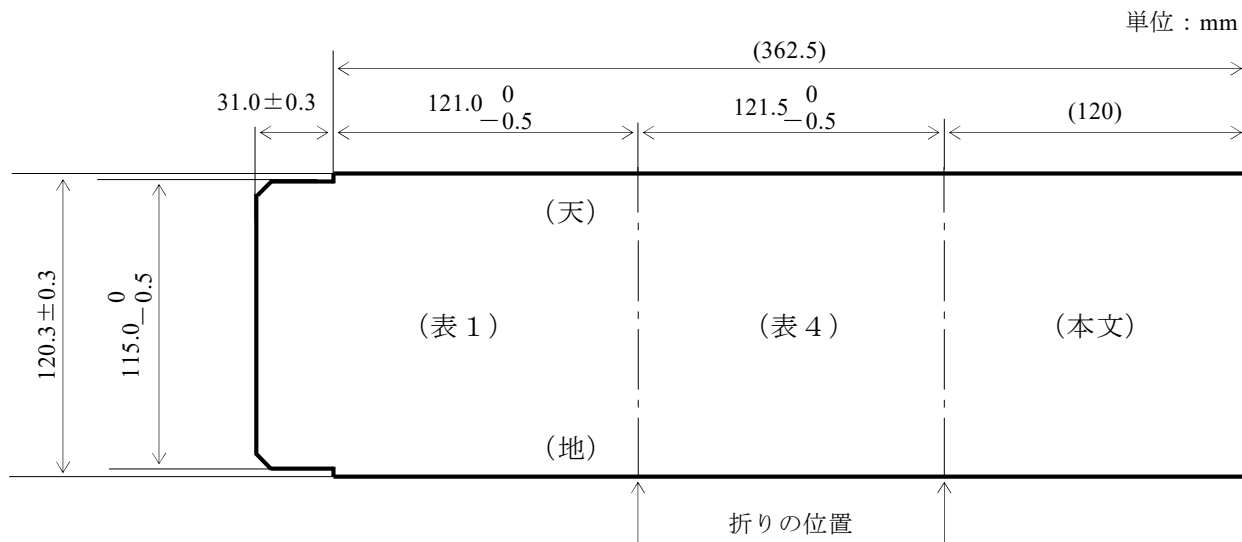
図7 II型の展開図

単位：mm



備考 ()内の寸法は，参考寸法とする。

図 8 III型の展開図



備考 () 内の寸法は、参考寸法とする。

4.2 用紙 表カードの用紙は、表 4 のとおりとする。

表 4 表カードの用紙

項目	ジュエルケース用 (I型)	ジュエルケース用 (II型, III型)	マルチケース用	マキシケース用 (I型, II型, III型共通)
紙質	コート紙	コート紙	コート紙	コート紙
米坪量 g/m ²	157.0	127.9 又は 157.0	127.9 又は 157.0	157.0

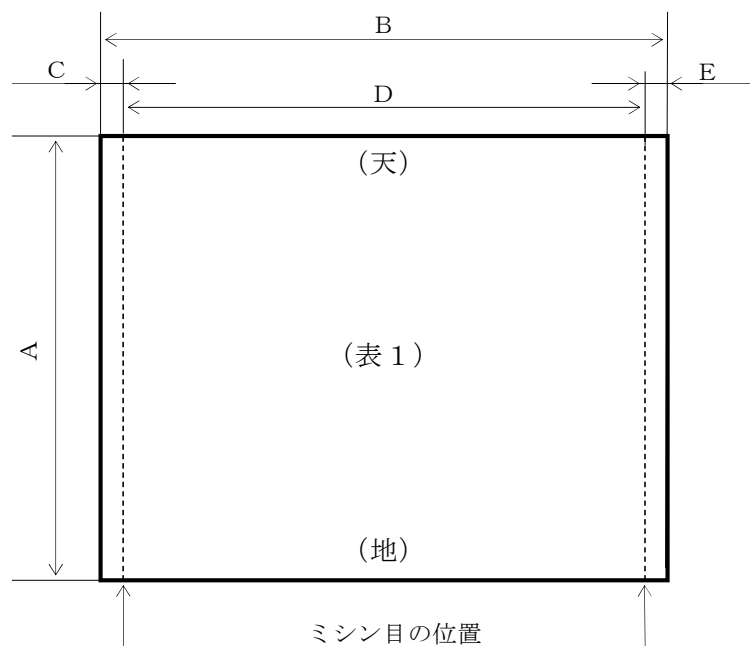
4.3 形抜方向 形抜きの方向は、印刷面側 (表 1) からとする。

4.4 紙目方向 紙目の方向は、仕上がり形状に対して横方向とする。

5. 裏カード

5.1 形状寸法 裏カードの形状は、図 9 のとおりとし、その寸法は、表 5 のとおりとする。

図9 裏カードの形状



- 備考 1. ミシン目は、原則として切刃 3mm、残 1mm とし、その方向は印刷面側（表 1）からとする。なお、断裁面から最初の切刃までの残は、1～1.5mm とする。
2. （表 1）とは、P ケースにセットした時、外側から見える部分を表す。

表5 裏カードの寸法

単位：mm

記号	ジュエルケース用／マルチケース用
A	$117.5 \begin{smallmatrix} 0 \\ -0.5 \end{smallmatrix}$
B	150.0 ± 0.5
C	$6.0 \begin{smallmatrix} +0.5 \\ 0 \end{smallmatrix}$
D	138.0 ± 0.25
E	(6.0)

備考 () 内の寸法は、参考寸法とする。

5.2 用紙 裏カードの用紙は、表 6 のとおりとする。

表 6 裏カードの用紙

項 目	ジュエルケース用／マルチケース用
紙 質	コート紙
米坪量 g/m ²	127.9 又は 157.0

5.3 形抜方向 形抜きの方向は、印刷面側（表 1）からとする。

5.4 紙目方向 紙目の方向は、仕上がり形状に対して横方向とする。

6. ブックレット

6.1 形状寸法 ブックレットの仕上がり形状は、図 10 のとおりとし、その寸法は、表 7 のとおりとする。

図 10 ブックレットの形状

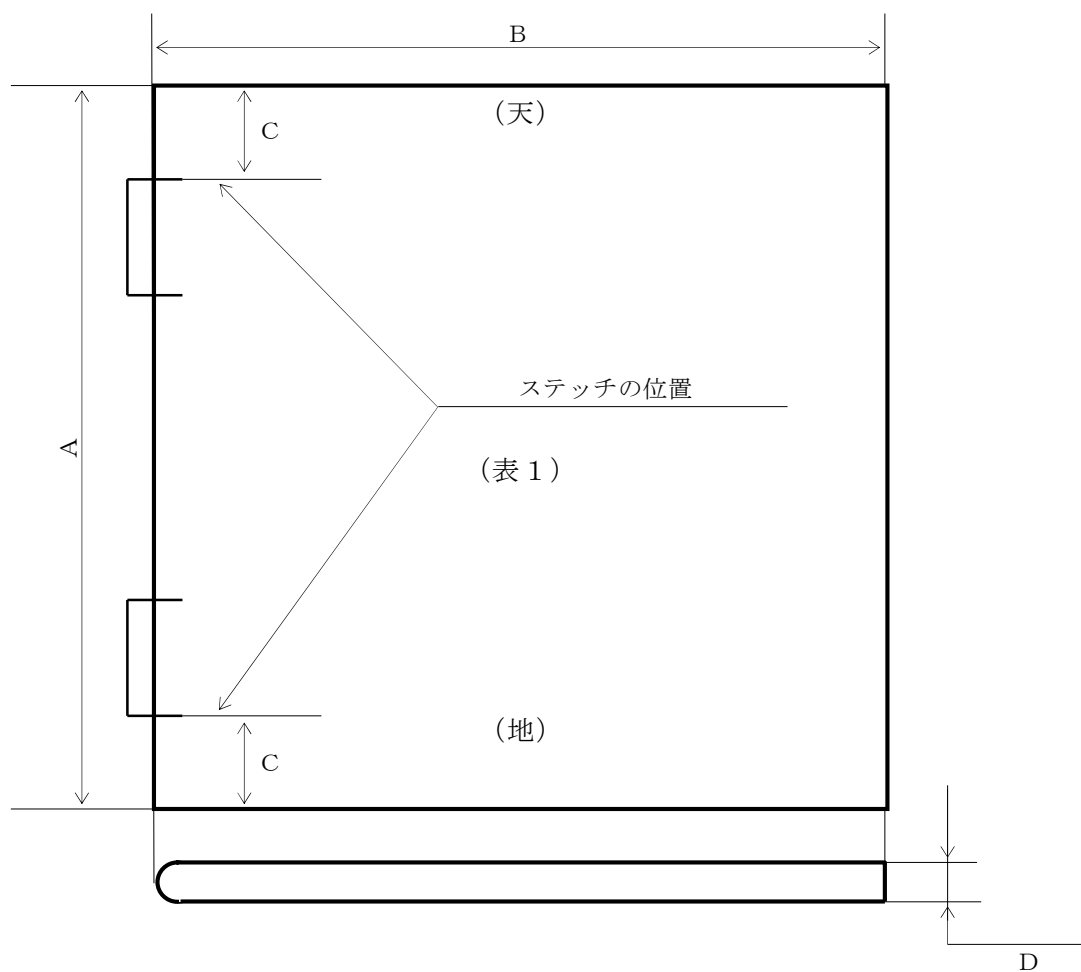


表 7 ブックレットの寸法

単位：mm

記号	ジュエル ケース用	マルチケース用		
		2Dタイプ	3Dタイプ	4Dタイプ
A	119.5±0.5	119.0±0.5	119.0±0.5	119.0±0.5
B	121.0 ⁰ _{-1.0}	120.0±0.5	120.0±0.5	120.0±0.5
C	15±2	15±2	15±2	15±2
D	1.8以下	4.2以下	4.2以下	1.5以下

備考 寸法Dは、折込みカード、添付物などを含めた総厚（最厚部）とする。

6.2 用紙 ブックレットの用紙は、表 8 のとおりとする。

表 8 ブックレットの用紙

項目	表紙	本文
紙質	コート紙	上質紙又はコート紙
米坪量 g/m ²	127.9 又は 157.0	127.9 以下

6.3 紙目方向 ブックレット表紙の紙目の方向は、仕上がり形状に対して横方向とする。

7. 折込みカード

7.1 形状寸法 折込みカードの仕上がり形状は、図 11 及び図 12 のとおりとし、その寸法は、表 9 のとおりとする。

図 11 折込みカードの形状

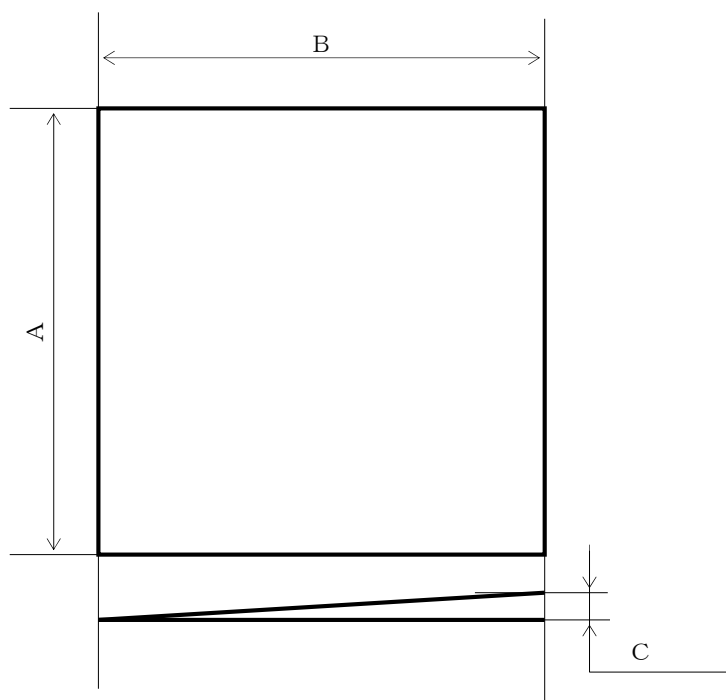


図 12 折込みカードの形状

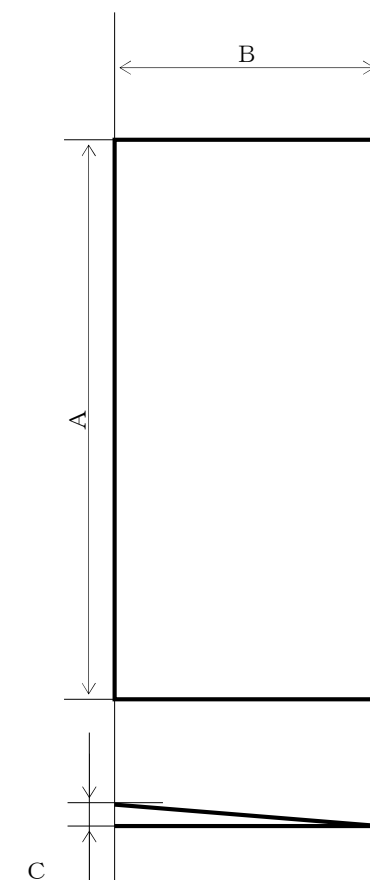


表 9 折込みカードの寸法

単位：mm

記号	12センチ用	8センチ用	
	図 11	図 11	図 12
A	118±1	71±1	148.0±0.5
B	118±1	74±1	70 $\begin{smallmatrix} +2 \\ 0 \end{smallmatrix}$
C	(1.8 以下)	1.5 以下	0.7 以下

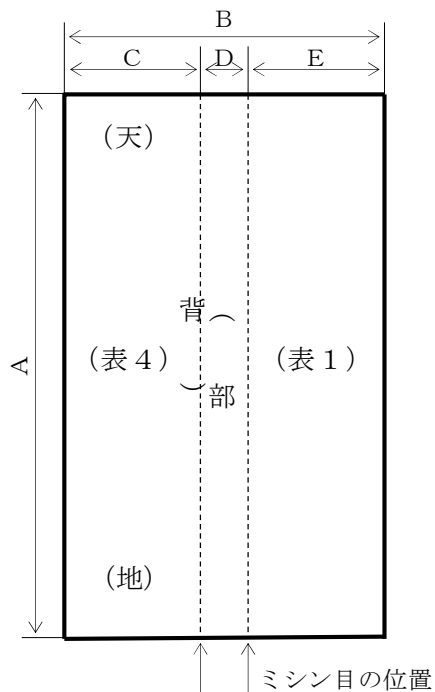
備考 () 内の寸法は、表カードを含む総厚（最厚部）とする。

7.2 用紙 折込みカードの用紙は、米秤量 64.0～81.4g/m²の上質紙，米秤量 84.9～104.7g/m²のコート紙又はこれと同等のものとする。

8. キャップ

8.1 形状寸法 キャップの形状は、図 13 のとおりとし、その寸法は、表 10 のとおりとする。

図 13 キャップの形状



備考 ミシン目は、原則として切刃 3mm、残 1mm とし、その方向は印刷面側からとする。
 なお、断裁面から最初の切刃までの残は、1~1.5mm とする。

表 10 キャップの寸法

単位：mm

記号	ジュエルケース用	マルチケース用	マキシケース用
A	120.0±0.5	120.0±0.5	120.0±0.5
B	70.5±0.5	84.5±0.5	67.0±0.5
C	30.0±0.5	30.0±0.5	30.0±0.5
D	10.5±0.25	24.5±0.25	7.0±0.25
E	30.0±0.5	30.0±0.5	30.0±0.5

備考 寸法 C, D, E については、寸法 B の規定の範囲内で割り付けること。

8.2 用紙 キャップの用紙は、表 11 のとおりとする。

表 11 キャップの用紙

項目	ジュエルケース用／マルチケース用	マキシケース用
紙質	コート紙	コート紙
米坪量 g/m ²	127.9 又は 157.0	157.0

8.3 形抜方向 形抜きの方向は、印刷面側からとする。

8.4 紙目方向 紙目の方向は、仕上がり形状に対して横方向とする。

9. トレイジャケット

9.1 形状寸法 8センチ CD 用のトレイジャケットの仕上がり形状は、図 14 のとおりとし、その寸法は、表 12 のとおりとする。

なお、ジャケットカードの展開図を図 15 に示す。

図 14 トレイジャケットの形状

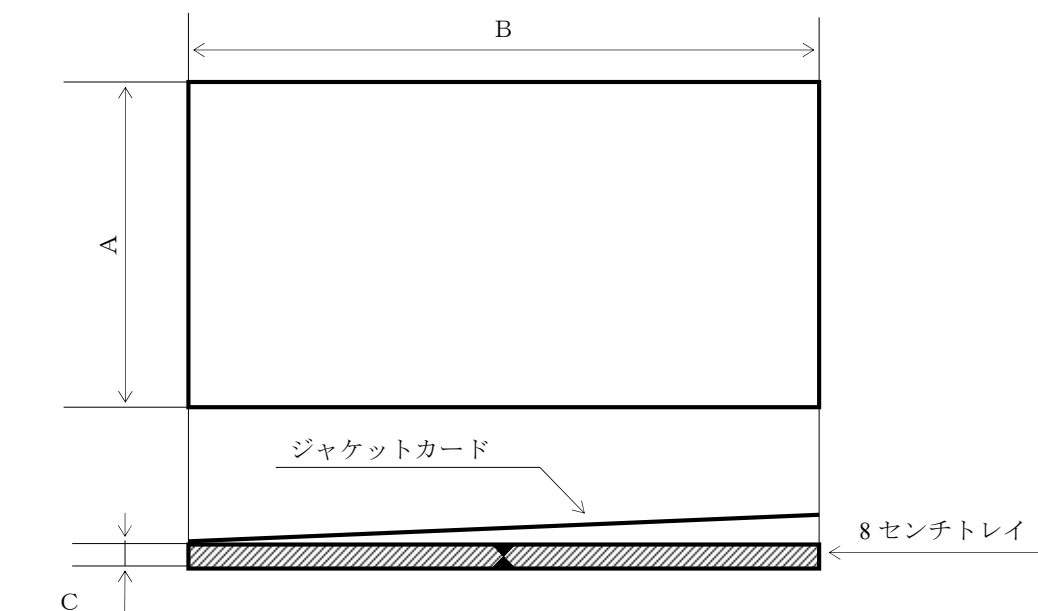
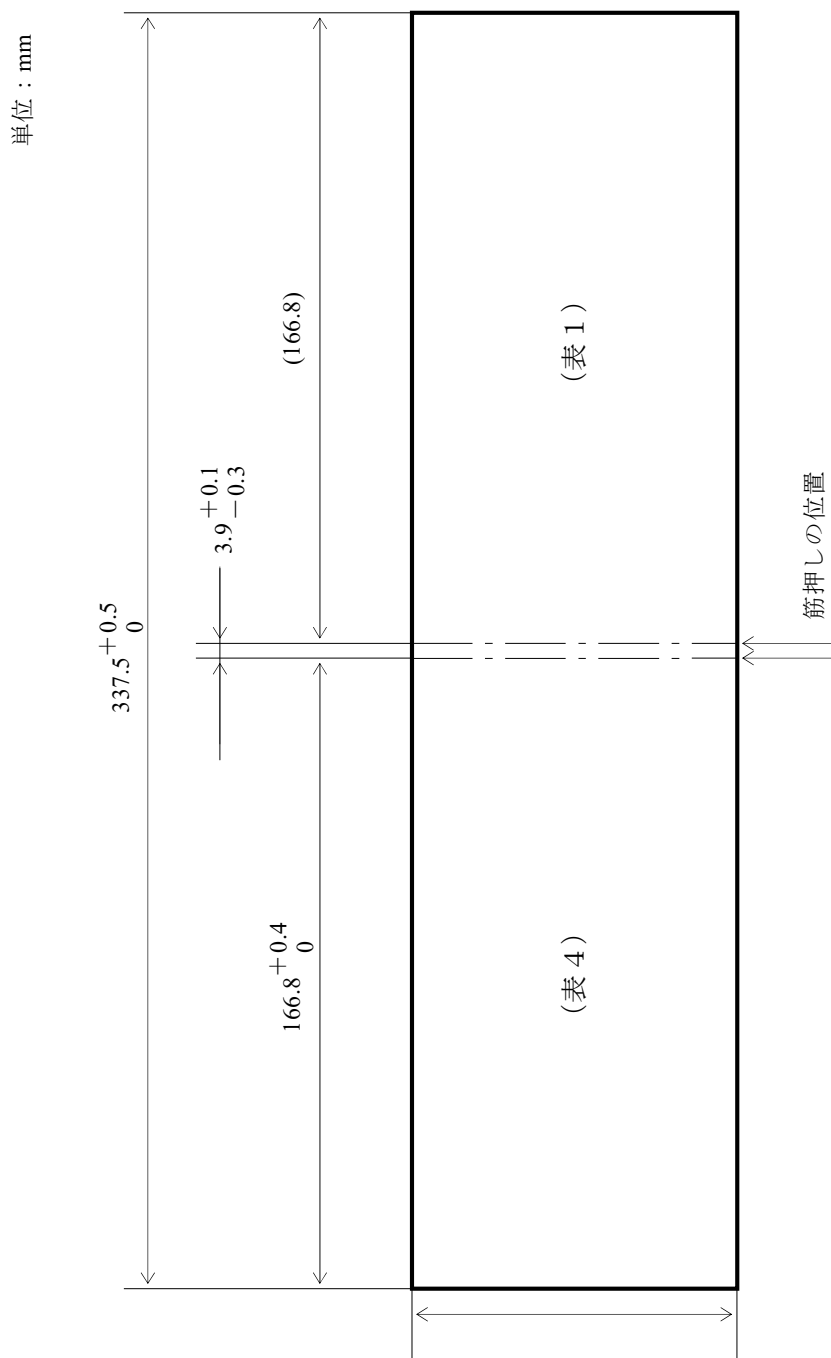


表 12 トレイジャケットの寸法
単位：mm

記号	寸法
A	$86.0^{+0.5}_0$
B	$166.8^{+0.4}_0$
C	$3.9^{+0.1}_{-0.3}$

図 15 ジャケットカードの展開図



備考 () 内の寸法は、参考寸法とする。

9.2 用紙 ジャケットカードの用紙は、米坪量 210g/m^2 の板紙とする。

9.3 形抜方向 形抜きの方向は、(表 1)、(表 4) 側からとする。

9.4 紙目方向 紙目の方向は、仕上がり形状に対して長手方向とする。

10. レーベル印刷の範囲 レーベル印刷の範囲は、図 16 及び表 13 のとおりとする。

図 16 レーベル印刷の範囲

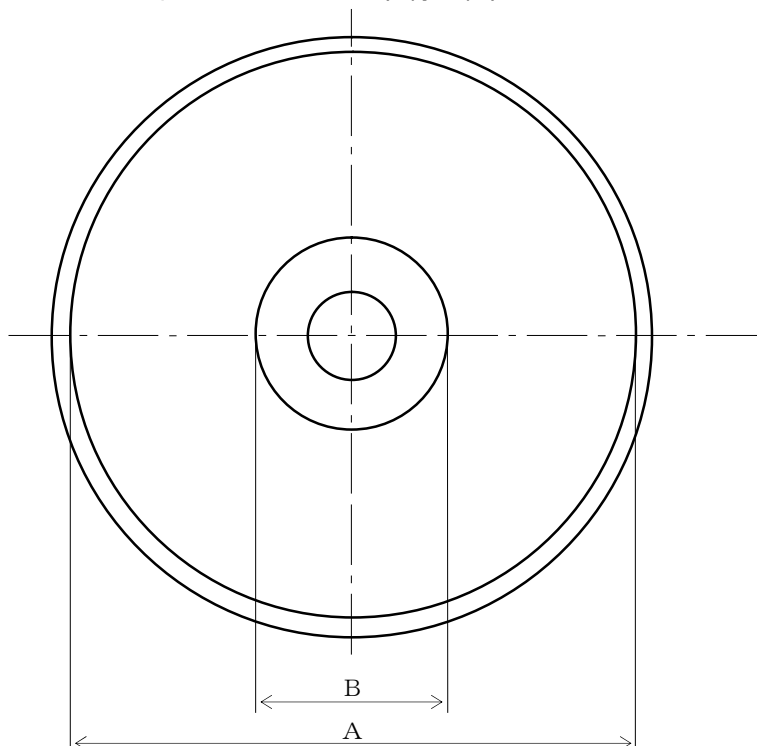


表 13 レーベル印刷範囲の寸法

単位：mm

印刷タイプ		A		B	
		12センチ CD	8センチ CD	12センチ CD	8センチ CD
標準スクリーン		116 以下	76 以下	46 以上	46 以上
全面スクリーン		116 以下	76 以下	23 以上	23 以上
標準オフセット	白ベタ版	115 以下	75 以下	42.5 以上	42.5 以上
	色版	116 以下	76 以下	41.5 以上	41.5 以上
全面オフセット	白ベタ版	115 以下	75 以下	24 以上	24 以上
	色版	116 以下	76 以下	23 以上	23 以上

- 備考** 1. オフセットの白ベタ版とは下地のスクリーン印刷である。
2. レーベル印刷において、文字や線等の品質を維持するために次のことを推奨する。
文字級数は9級以上、書体はゴシック又はナール系、
線の幅は乗せ文字 0.2mm 以上、抜き文字 0.3mm 以上とする。
スクリーン印刷の場合は分解線数 85 線以下とする。
なお、詳細については製造委託先会社に照会のこと。

RIS203-1999 コンパクトディスク用附属品 解説

1. 規格制定・改正の趣旨及び経緯

1.1 制定の趣旨 コンパクトディスク（以下、CD と略称する。）は、1982年にオーディオ専用CD（CD-DA）が発売されて以来、急速な普及をみせ、オーディオレコードの主力商品になると共に、グラフィックス付CD（CD-G）、ビデオ付CD（CD-V）などの発展型CDも発売された。これに伴い、これら商品を形成するパッケージ、解説書などの附属品も多様化してきたことから、一般消費者に対する品質保証、諸資材の発注・購入の単純化、各社間における受発注業務の円滑化、自動化による生産合理化などを目的として、1988年に各社が共通に採用できる“標準タイプ”について、日本レコード協会規格（RIS203）を制定した。

1.2 前回までの改正の経緯 この規格は、1992年、1998年、1999年の3回にわたり改正が行われた。

第1回（1992年）の改正は、各社における自動化の進展と共に、作業性の向上など生産合理化のための創意工夫が進み一部の寸法規定などを修正する必要が生じたため、CDのJIS化（JIS S 8605）を機に、改めてCD用の各種附属品の実態を調査して、規格の見直しを行った。

第2回（1998年）の改正では、1992年の改正から6年が経過したことから、各社の実情に合わせることに主眼を置き、附属品の寸法とレーベル印刷範囲の見直しを重点的に、規格書の体裁を含め、規格書全体の見直しを行った。

1.3 今回（1999年）改正の趣旨 今回の改正では、本文6P「表3 マキシケース用表カードの寸法（I型、II型、III型共通）」及び、本文11P「表9 折り込みカードの寸法」2か所の誤植修正を行った。

2. 規格運用に際しての留意点 この規格では、CDに使用する“標準タイプ”の附属品を規定している。ただし、この規格に規定する“標準タイプ”以外の附属品の使用を規制するものではない。

以下に、その主な点について、従来の経緯を含め解説する。

3. 適用範囲（本体の1.） この規格では、JIS S 8605に準拠して製造する12センチ及び8センチのオーディオCD（CD-DA）、CDグラフィックス、CDテキスト、CDエクストラ、ビデオCD、CD-ROMなどに用いる標準タイプの附属品と、それらのレーベル印刷範囲について規定した。

なお、12センチCD用のPケース及び8センチCD用トレイについては、すでに標準化されているので、従来どおり除外している。

また、旧規格で“備考”に掲げていた引用規格は、この規格では、“2.”に移行した。

4. 用語の定義（本体の3.） CD用の各種附属品の名称は、各社それぞれに多様なものがあるため、この規格に用いる主な用語について定義し、用語の統一を図っている。

5. 表カード（本体の 4.）

5.1 形状寸法（本体の 4.1） 表カードの形状寸法は、使用する P ケースのタイプによって規制されるので、ジュエルケース用、マルチケース用、マキシケース用に分類し、その仕上がり寸法を規定している。

1) ジュエルケース用とマキシケース用の表カードは、それぞれ幾通りかのタイプがあるが、この規格では自動機との適合性から、1 枚ものの I 型、二つ折りの II 型、三つ折り以上の III 型の 3 種類を規定した。

この内、II 型と III 型の表カードについては、デザイン、製版などの作業上の問題を考慮し、それぞれ展開図を示してある。

2) マキシケース用表カードの寸法（表 3）の寸法 C は参考寸法“(155)”であったが、寸法 D と寸法 E の和より数値が大きいため、“公差 0.3”を考慮し、“(152.8)”に変更した。

3) ジュエルケース用の II 型、III 型の展開図（図 2, 3）とマキシケース用 II 型、III 型の展開図（図 7, 8）の“ミシン目の位置”は現在の加工技術では、ミシン目である必要がないことから、“折りの位置”に変更した。

5.2 用紙（本体の 4.2） 表カードの用紙は、自動機との適合性を重要視する必要性から、ジュエルケース用、マルチケース用、マキシケース用に分類し、それぞれ規定した。

1) ジュエルケース用の用紙（表 4）は、旧規格では“米坪量 127.9 g/m² と 157.0 g/m²”のコート紙とされていたが、各社の状況を再調査したところ、I 型の場合は“127.9 g/m²”では自動機にかからない場合があるため、今回の改正では、“ジュエルケース用（I 型）”を“157.0 g/m²”のコート紙に限定した。ただし、“ジュエルケース用（II 型・III 型）”は、従来どおり“米坪量 127.9 g/m² と 157.0 g/m²”とした。

2) “マルチケース用”は、“ジュエルケース用（II 型・III 型）”と同様であり、今回の改正で“米坪量 127.9 g/m² と 157.0 g/m²”に変更した。

なお、“米坪量 127.9 g/m² と 157.0 g/m²”のコート紙は、通常取引に用いられるキロ連量では、“四六判 110kg と 135kg”に相当する。

5.3 形抜方向（本体の 4.3） 形抜の方向は、自動機の動作上重要な特性であるため“印刷面側（表 1）から”と規定している。

5.4 紙目方向（本体の 4.4） 紙目方向は、自動機の動作上重要な特性であるため“仕上がり形状に対して横方向”と規定してある。

6. 裏カード（本体の 5.）

6.1 形状寸法（本体の 5.1） 裏カードの形状寸法は、P ケースとの関係から、ジュエルケース用とマルチケース用とも同一寸法としてある。

6.2 用紙（本体の 5.2） 裏カードの用紙は、自動機との適合性と各社の実態とを再調査した結果、“米坪量 127.9 g/m² のコート紙”を使用しても問題ないため、ジュエルケース用とマルチケース用とも“米坪量 127.9 g/m² と 157.0 g/m² のコート紙”とし、“米坪量 127.9 g/m² のコート紙”を追加した。

6.3 形抜方向（本体の 5.3） 形抜の方向は、自動機の動作上重要な特性であるため、その方

向を規定してある。

6.4 紙目方向（本体の 5.4） 紙目の方向は、自動機の動作上重要な特性であるため、その方向を規定してある。

7. ブックレット（本体の 6.）

7.1 形状寸法（本体の 6.1） ブックレットの形状寸法は、仕上がり寸法で規定した。

寸法 D の総厚（最厚部の厚さ）は、使用する P ケースによって制限を受けるので、折り込みカードなどの添付物を挿入するときは注意を要する。

なお、今回の改正では、次のように変更した。

- 1) “マルチケース用”の寸法 A はジュエルケース用と同一寸法では、ケースに入らないことがあるため全タイプとも“ 119.5 ± 0.5 ”から“ 119.0 ± 0.5 ”に変更した。
- 2) “ジュエルケース用”の寸法 B は“121.0”から“ $121.0 +0/-1.0$ ”と公差を追加した。
- 3) “マルチケース用”の寸法 B はジュエルケース用と同一寸法では、ケースに入らないことがあるため全タイプとも“121.0”から“120.0”とし、更に公差を追加し“ 120.0 ± 0.5 ”に変更した。

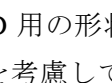
7.2 用紙（本体の 6.2） ブックレットの用紙は、表紙と本文が異なる場合と、共紙を用いる場合とがあるので、表紙については“米坪量 127.9 g/m^2 （四六判 110kg）又は 157.0 g/m^2 （四六判 135kg）のコート紙”，本文については“米坪量 127.9 g/m^2 （四六判 110kg）以下の上質紙又はコート紙”とそれぞれ規定した。

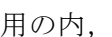
しかし、ブックレットは、この規格に規定する用紙の範囲においても、页数との関係あるいは添付物の有無などによって多様な組み合わせが考えられ、自動機との適合性上問題を起こすおそれがあるので、それぞれの組み合わせ事例等について、予め社内規定を設けておくことが望ましい。

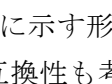
7.3 紙目方向（本体の 6.3） 紙目の方向は、ブックレットとしての仕上がり状態と P ケースに挿入するときの作業性とを考慮して規定した。

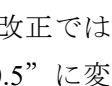
8. 折り込みカード（本体の 7.）

8.1 形状寸法（本体の 7.1） 折り込みカードの形状寸法は、12 センチ CD 用と 8 センチ CD 用とに区分して規定してある。

12 センチ CD 用の形状寸法（ 11）は、表カード又はブックレットに挟み込まれたときの仕上がり状態を考慮して規定した。

8 センチ CD 用の内、 11 に示す形状寸法は、ミニトレイに対応するものである。

また、 12 に示す形状寸法は、従来型 8 センチトレイに対応するものであるが、併せてミニトレイとの互換性も考慮して規定したものである。

なお、今回の改正では、8 センチ CD 用の  12 の寸法 A は公差の桁数にあわせて、“ 148 ± 0.5 ”から“ 148.0 ± 0.5 ”に変更した。

8.2 用紙（本体の 7.2） 折り込みカードに用いる用紙は、“米坪量 $64 \text{ g/m}^2 \sim 81.4 \text{ g/m}^2$ の上質紙”又は、“米坪量 $84.9 \text{ g/m}^2 \sim 104.7 \text{ g/m}^2$ のコート紙”が一般的であるが、これと同等のもの

であれば差し支えない。

なお、ここでいう米坪量は、通常取引に用いられるキロ連量では、上質紙は“四六判 55kg と 70kg”，コート紙では“四六判 73kg と 90kg”にそれぞれ相当する。

9. キャップ（本体の 8.）

9.1 形状寸法（本体の 8.1） キャップの形状寸法は、ジュエルケース用、マルチケース用と、マキシケース用の 3 種類について規定した。

なお、ミシン目の加工精度は、自動機の動作上特に重要な特性であるため、加工上注意を要する。

9.2 用紙（本体の 8.2） キャップの用紙は、各社の実態及び自動機との適合性を考慮して規定している。なお、従来の規格では、“米坪量 157.0 g/m² のコート紙”と規定していたが、今回の改正では、“ジュエルケース用／マルチケース用”と“マキシケース用”とに分け、それぞれ“米坪量 127.9 g/m² 又は 157.0 g/m² のコート紙”と“米坪量 157.0 g/m² のコート紙”と規定した。

9.3 形抜方向（本体の 8.3） 形抜の方向は、自動機の動作上重要な特性であるため、その方向を規定してある。

9.4 紙目方向（本体の 8.4） 紙目の方向は、自動機の動作上重要な特性であるため、その方向を規定してある。

10. トレイジャケット（本体の 9.）

10.1 形状寸法（本体の 9.1） トレイジャケットの形状寸法は、販売店における商品の整理・陳列等を考慮して、仕上がり寸法で規定してある。

このトレイジャケットには、切込付のタイプ、三つ折りのタイプなど、幾つかのタイプのものが使用されているが、この規格では自動化促進のため、標準タイプのジャケットカードの展開図を示してある。

また、ジャケットカードは、表裏（表 1、表 4）の識別が困難なデザインのものが増加する傾向にあるため、事故防止、作業性の向上などから“トレイ貼付部”を明示することを推奨する。

10.2 用紙（本体の 9.2） ジャケットカードの用紙“米坪量 210 g/m² の板紙”は、“L判 18.5kg”に相当する。

10.3 形抜方向（本体の 9.3） 形抜の方向は、自動機の動作上重要な特性であるため、その方向（表 1、表 4 側）を規定してある。

10.4 紙目方向（本体の 9.4） 紙目の方向は、自動機との適合性上、特に規定している。

11. レーベル印刷の範囲（本体の 10.） レーベルの印刷範囲は、コンパクトディスク規格（JIS S 8605）に規定がないので、各社間の互換性を維持するため、この規格で規定した。

今回の改正では、各社の実情に合うように、レーベル印刷の範囲及び印刷の方式を、“標準スクリーン”、“全面スクリーン”、“標準オフセット”、“全面オフセット”の 4 つのタイプに

区分して規定した。

また、“溝付スクリーン”と“溝付オフセット”についても検討したが、各社間でディスクの溝の位置が微妙に異なることから、今回は標準化しないこととした。

なお、“オフセット”印刷の“白ベタ版”とは、“色版”の下地のスクリーン印刷を指しているので注意すること。

さらに、今回の改正から備考の“2.”として、レーベル印刷において、文字や線等の品質を維持するための推奨項目を追加した。

12. 原案作成委員会 この規格の改正原案の作成は、技術委員会品質管理専門部会が担当した。その委員構成を次に示す。

品質管理専門部会 委員構成表

	氏 名	所 属
(幹 事)	吉 武 勇 次	日本ビクター株式会社メディア・プロデュース事業部 品質保証部
(副幹事)	菊 地 政 雄	キングレコード株式会社業務部
(委 員)	河 口 勉	日本コロムビア株式会社生産本部製造部
	金 子 寿美男	日本ビクター株式会社 MRS 事業部技術部
	阪 口 修 一	テイチク株式会社奈良事業部
	安孫子 輝 明	ポリグラム株式会社編集デザイングループ
	山 口 智 紹	東芝 EMI 株式会社技術生産本部品質保証部
	島 田 正 雄	株式会社徳間ジャパンコミュニケーションズ商品管理部
	増 田 昌 彦	株式会社ソニー・ミュージックエンタテインメント プロダクションセンター品質管理グループ
	中 井 暁	株式会社ポニーキャニオン編成部
	土 橋 裕	パイオニア LDC 株式会社 CS 室
	高 橋 秀 一	エイベックス株式会社販促営業本部販売促進第 1 部
(事務局)	北 村 幸 市	社団法人日本レコード協会技術部
	赤 塚 祐一郎	社団法人日本レコード協会技術部